

# 高品質の自動車生産に欠かせない 特殊油圧シリンダーでシエア70%

自動車の部品を成形する際に使う特殊油圧シリンダーと、ボディーなどに使われる金属板を工場内で巻き取るロータリーシリンダー。どちらも自動車製造に欠かせない機械だ。南武(東京都大田区)はこれらシリンダーで国内シエア70%と他社を圧倒する。自動車メーカーの要望や相談にきめ細かく応じていく合理的な研究開発、オーダーメイド(受注生産)型の多品種・少量生産体制と、創意工夫を凝らして

特許を取得する経営戦略により、自社製品の価格とシエアを維持している。



社員の平均年齢は34歳と同業者のなかでは若く、女性も積極的に採用している。



商社勤務の経験を生かし、海外の顧客も獲得した野村和史社長。



特殊油圧シリンダーはプラスチック製品の製造にも使われる。



特殊油圧シリンダーの一種、「QSシリンダー」の先端に付くナットを削る。微妙な切削作業はベテラン職人の手にゆだねられる。

## トップシェア獲得に 欠かせない特許技術

東京都大田区萩中。日本のものづくりを支える中小企業が密集する町に、世界の自動車メーカーが熱い視線を注ぐ工場がある。特殊油圧シリンダーの設計・製作で名高い南武だ。南武の特殊油圧シリンダーは、主に自動車のエンジンなどを成形する金型に使われている。エンジンは極めて複雑な形をしている。そのため、金型に流し込まれた原料に凹凸や空洞を付けるため、中子という部品で複雑な形を実現する。原料の成形が終わったら、金型から中子を引き抜くが、この時に大きな力を発揮する南武の特殊油圧シリンダーが必要になるのだ。トヨタ自動車、本田技研工業、日産自動車など国内の大手メーカーと直接取引をしており、アメリカやロシア、ドイツなど海外諸国からの視察の依頼も後を絶たない。自動車用の特殊油圧シリンダーの国内シェアは70%に及び、自動車の車体で使用される極薄の金属を、工場内で短時間のうちに巻き取る機械であるロータリーシリンダーの世界シェアも実に70%以上。この高い数字を可能にしたのが、独自の営業戦略だ。常務取締役の中田清嗣氏が説明する。「南武の営業マンは、製品の売り込みはしません。それよりも、顧客が抱えている問題点、悩みを丁

寧に聞き出し、その情報を設計部門と研究開発部門に伝えるのです」  
こうして、自動車メーカーが何を望んでいるのかを的確につかんだ設計部門、研究開発部門は、問題点を解消した製品を生み出す。ほとんどの製品が事実上オーダーメイド（受注生産）であり、「多品種・少量生産」を徹底しているのが同社の最大の特徴だ。  
「ここは問題解決型の研究開発を行なう工場。顧客とは『技術営業』で接しています」（中田常務）  
研究開発により取得した特許の数々は、南武の大きな原動力だ。「常に特許を取得していかなければ、同業他社との価格競争になりません。そうすると利益は出ないし、シェアも小さくなる。中国や韓国などには低コストの工場がありますから、国内の中小工場は特許を取らないと生き残りが難しいでしょう」。中田常務はトップシェアの維持に特許戦略が欠かせないことを強調する。

## 女性も多く採用し 3Kの職場イメージを払拭

各自動車メーカーの求めに応じて適時少量の製品を開発・製作し、素早く納品する体制は、近年ますます重要性を帯びるようになった。価値観の多様化にともない、自動車の機能とデザインが進化を続け、多くの車種を適量生産することが常識にな

りつつあるからだ。車の機能とデザインを次々と変えていく自動車メーカーは、合理的な生産ラインの構築を進め、新車種の開発、モデルチェンジにより必要となった最新の部品類を適量だけ手に入れることを求めている。南武はそのニーズを見事に満たしているわけだ。

1941年創業の南武は、古くから自動車部品やオートバイ部品の製造に取り組んできた。63年に工場の全焼という災難に見舞われるが、2年後には会社を再興して油圧シリンダーの開発と製造に力を注ぎ始める。

技術革新の基を成すのは、やはり熟練技術者の手腕だという。6つのエリアに分けられた工場には全自動のNC旋盤や高精度の加工ができる機器など最新の設備が並んでいるが、創業当時から使っている手動旋盤もまだ現役だ。野村和史社長は、技術開発への熱い思いを年季が入った旋盤の前で語る。「戦時中、原材料がない時代でも、日本の技術者は少ない原料で時速300kmを出す飛行機を造ることができました。元々、それほどの技術力があるわけです」

2代目の経営者である野村社長は、先代が築いた基盤を引き継いで研究開発を一層推し進め、シリンダーにリミットスイッチや冷却機能を付けるなどの画期的な技術革新を実現させてきた。その一方、商社勤務時代に培った国際感覚と市場分析力

を発揮して、海外にも積極的に進出した。今ではタイのオオタテクノパーク内に50人体制の工場も構える。また、アメリカのファイブスター社への技術供与をはじめ、アジア諸国、EU諸国の自動車関連企業と協力関係を深めている。  
工場内には音楽が流れ、女性も多く働き、従業員同士のコミュニケーションを重視した環境づくりがなされている。「社員の男女比は、優良な工場のパロメーターにもなるのではないのでしょうか。南武では各部署に必ず女性の社員がいます（中田常務）。若い女性も積極的に採用し、かつては男の世界と考えられていた生産現場で技術者として育成している。

世界のトップ企業が注目し、引く手あまたの南武。オーダーメイド型の研究開発と、何より大切な高品質の維持を貫き通し、世界の自動車市場を席巻する勢いだ。

### 南武

所在地	144-0047 東京都大田区萩中3-14-18
TEL	03-3742-7377
創業	1941年
資本金	5800万円
売上高	21億円（07年9月期）
従業員数	127人
事業内容	金型用中子シリンダー、製鉄巻き取り用ロータリージョイント、センサシリンダー（超小型センサシリンダー）などの開発と製造
URL	http://www.nambu-cyl.co.jp/

文・橋口義彦（ハリーフッド） 写真・小川貴史